

第23期
定期総会

植樹中心の活動を継続

会報

モンゴル

VOL 60 2012. 11. 22

●発行者 中山喜重
●発行所 長野県モンゴル親善協会
長野市東町532-3
TEL・FAX 026-235-6717

11月16日、長野市・労働会館で第23期定期総会を開催し、28人の会員が出席した。

会長挨拶に続き、来

賓の長野国際親善クラブ・小出会長と信州新町モンゴル親善協会・久保田会長から挨拶をいただいた。

中山会長を議長に、原田副会長が活動報告を、決算報告を西澤事務局長が、会計報告監査を喜多監事が提案し、承認された。

また、活動報告・予算案を西澤事務局長が提案し、いずれも承認され、総会を閉じた。

総会後、第23次モンゴル国植林交流団に参加した小林優さん（労働金庫資金部長）から、写真を写し出しながら交流団の活動状況や現地での食事内容などについて説明していた。

小林さんの他、団員4人も出席しており、「この時はこうだった」など、思いで話に花が咲く場面もあった。

この後、参加者は懇親会で交流を深めた。

総会後は第23次団の報告会が行われた



モンゴルに植樹

昨年は、植林・植樹中心の活動を始めようとしてスタートを切った年。交流団として22名の協力を得て、植樹を行った。

植樹をしてみて、改めてモンゴルでの植樹の難しさを経験した。



総会を挨拶する中山会長

政府はゴビ砂漠地方でグリーンベルト（木を植える政策）を掲げているが、諸外国の協力が無いと非常

主な活動報告

1. 第23次モンゴル国植林交流団派遣
2. 関係諸団体の講演会・会議等への出席
3. 各種関係団体のイベントへの参加
4. フレルバートル駐日大使来県・県内各界代表者との懇談
5. 「大関鶴竜・元関脇旭天鵬を囲む会」の開催
6. 会報の発行（第59号・6/22）

主な活動方針

■モンゴル国の重点的国策でもある「砂漠化防止に貢献する」ため、モ

に難しい。こうした協力にもなればと思う。シグシッド前駐日大使は資源鉱物省の任に就き、そのトップも日本の大学卒という日本に関係深い2人が関わるということ、日本の鉱物資源にとってチャンスではないか。

また、日朝協議がウランバートルで開催されたが、現フレルバートル駐日大使の前職は北朝鮮大使であり、ウランバートルを介して日朝関係の歴史が開かれることを期待したい。

来年以降も植樹をしていくことになるが、現地で桜の木を植えている団体と知り合うことができた。

可能なら、次の団では桜を植えてみたい。モンゴルの人々が桜の花を見て、更に植樹の意欲を高めてもらえばいいのではないかと、引き続きの協力をお願いしたい。

ンゴル国への訪問派遣団は、「モンゴル国に信州の森をつくる会」をキヤッチフリーズに植林を重点とした活動とする（第24次訪問団の派遣）。

この他、例年通り次の活動も行う。

1. モンゴルからの留学生の支援
2. モンゴル国内及び県内在住のモンゴル人とのネットワークの構築
3. モンゴル国の大学と交流のある県内各大学との連携
4. 各種イベントへの参加
5. 「会報モンゴル」の発行と「ホームページ」の活用

役員の変更がありました（敬称略）。

幹事 今井啓二（労協専務理事）

幹事 寺澤博幸（友愛連絡会事務局 長）

幹事 中村雅代（自治労県本部副委員 長）